

千代田区公園づくり基本方針 骨子(案)

案1 ~こどもたちに都心の彩を~

案2 ~千代田区の歴史と未来を尊重し、
次世代の育みを支える 生き生きとした公園づくり~

案3 ~遊び、学び、憩う。居心地よいコモンスペースを目指して~

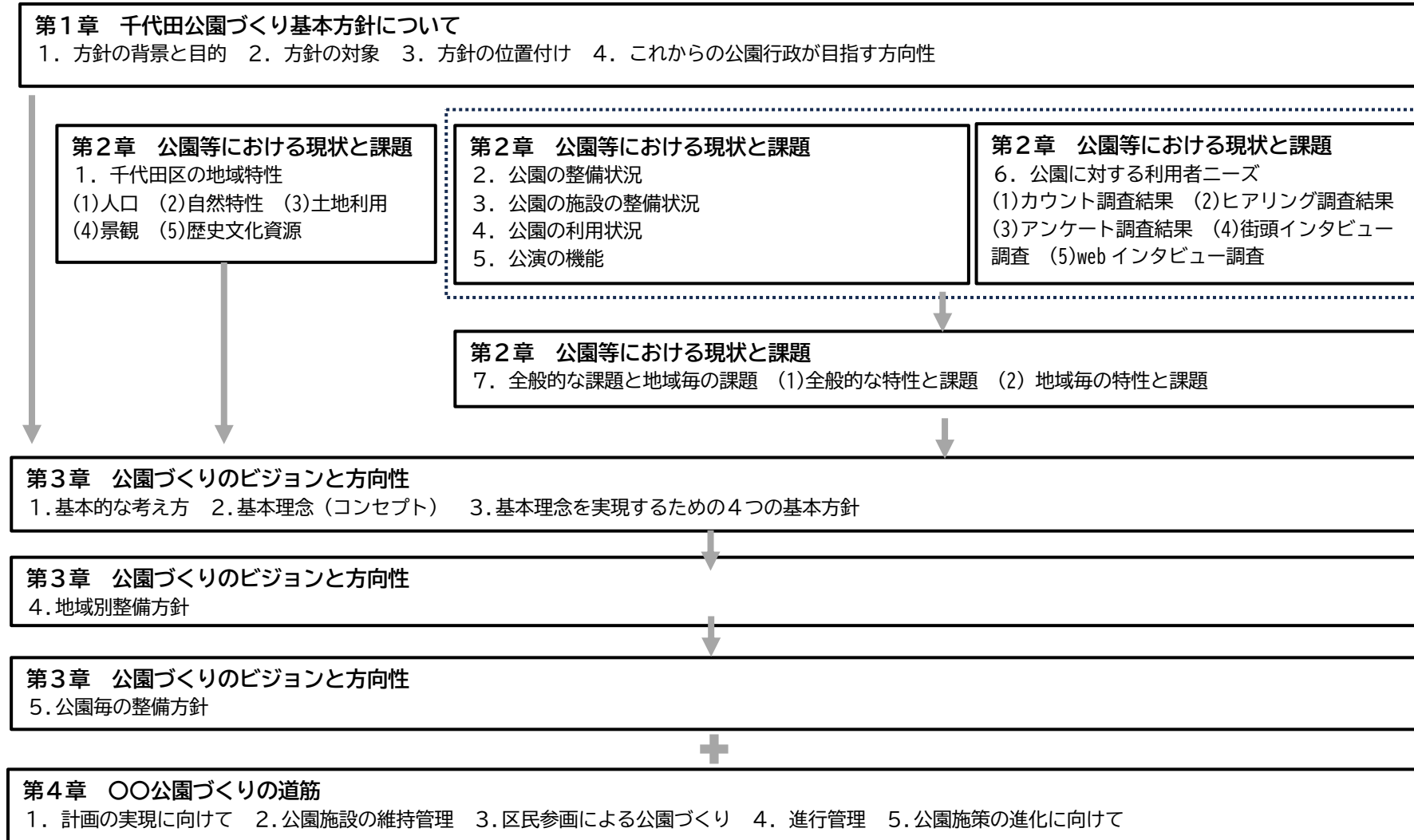
令和6年3月

目次

第1章 千代田区公園づくり基本方針について	2
1. 方針の背景と目的	2
2. 方針の対象	3
3. 方針の位置付け	4
4. これからの公園行政が目指す方向性	5
第2章 公園等における現状と課題	7
1. 千代田区の地域特性	7
2. 公園の整備状況	13
3. 公園の施設の整備状況	17
4. 公園の利用状況	21
5. 公園の機能	23
6. 公園に対する利用者ニーズ	30
7. 全般的な課題と地域毎の課題	68
第3章 公園づくりのビジョンと方向性	78
1. 基本的な考え方	78
2. 基本理念（コンセプト）	78
3. 基本理念を実現するための4つの基本方針	80
4. 地域別整備方針	84
5. 公園毎の整備方針 ※要検討	114

第4章 ○○公園づくりのアクションプラン	248
1. 計画の実現に向けて	248
2. 公園施設の維持管理	250
3. 区民参画による公園づくり	251
4. 進行管理.....	252
5. 公園施策の進化に向けて	253
資料編.....	255
1. 各種マップ一覧	255
2. 利用者ニーズ分析.....	255
3. 地域分析	255

章の構成



第1章 千代田公園づくり基本方針について

第1章 千代田区公園づくり基本方針について

1. 方針の背景と目的

千代田区では、平成19（2007）年5月に千代田区公園・児童遊園等整備方針を策定しました。本整備方針を背景に公園整備を進め、現在58箇所の公園・児童遊園・広場が整備されており、一定の成果を得ています。

一方で、整備方針策定後16年余が経過し、区内の人口増への転換や様々な都市開発、新型コロナウイルス感染症の蔓延等の影響により、都市生活の中での公園の重要性や、公園を取り巻く環境は大きく変化しています。また、都市緑地法や都市公園法などの関連法令が改定され、都市公園はより一層柔軟な利用や民間との連携推進等の施策展開が求められています。

こうした背景から、区内の公園・児童遊園・広場について、公園施設の再整備等による公園機能の見直しを図りながら、平成19年策定の整備方針と現代や将来のニーズを踏まえた魅力ある公園づくりを推進するために、本基本方針を策定します。

本計画は概ね2040年を展望する長期的な計画です。しかし、社会・経済状況の急激な変化、人々のニーズの多様化、緑とオープンスペース等に関わる新たな制度の創設などにも機動的に対応する必要があります。そのため、定期的に取り組状況を把握しながら、必要な見直しを検討する必要があります。具体的には、5年ごとに、施策の進捗、目標値の達成状況等を確認、評価し、必要に応じて、計画に位置づけられる施策の見直しを図ります。

2. 方針の対象

本基本方針では、千代田区が管理する58箇所の公園・児童遊園・広場を対象とします。（以下、千代田区管理の58箇所の公園・児童遊園・広場を「公園」という。）

東京都が管理する日比谷公園や環境省が管理する北の丸公園、皇居外苑、千鳥ヶ淵戦没者墓苑、衆議院が管理する国会前庭、宮内庁が管理する皇居東御苑は対象外とします。

表 千代田区内の公園・児童遊園・広場の数と面積

種別	箇所数	面積 (㎡)
区立都市公園	22	105,542
区立児童遊園	22	5,838
区立広場	14	9,199
合計	58	120,579

表 対象外の公園

公園名	所管	面積 (㎡)
日比谷公園	東京都	161,636
北の丸公園	環境省	193,298
皇居外苑	環境省	965,048 (濠部分 12濠 366,548)
千鳥ヶ淵戦没者墓苑	環境省	16,063
国会前庭	衆議院	50,000
皇居東御苑	宮内庁	210,000
合計		1,588,256

3. 方針の位置付け

本方針は、都市公園を含む千代田区の公園等の整備・管理に関する考え方を示すものです。都市緑地法では、都市公園の整備及び管理の方針を緑の基本計画に定めることとされています。そのため千代田区では、令和5年3月に策定した「千代田区第4次基本構想」、同年月に策定した「千代田区都市計画マスタープラン」を上位計画とし、令和3年7月に策定した「千代田区緑の基本計画」を策定しています。そのため、本方針は都市緑地法に基づく都市公園の管理方針として、千代田区みどりの基本計画の一部として位置付けます。

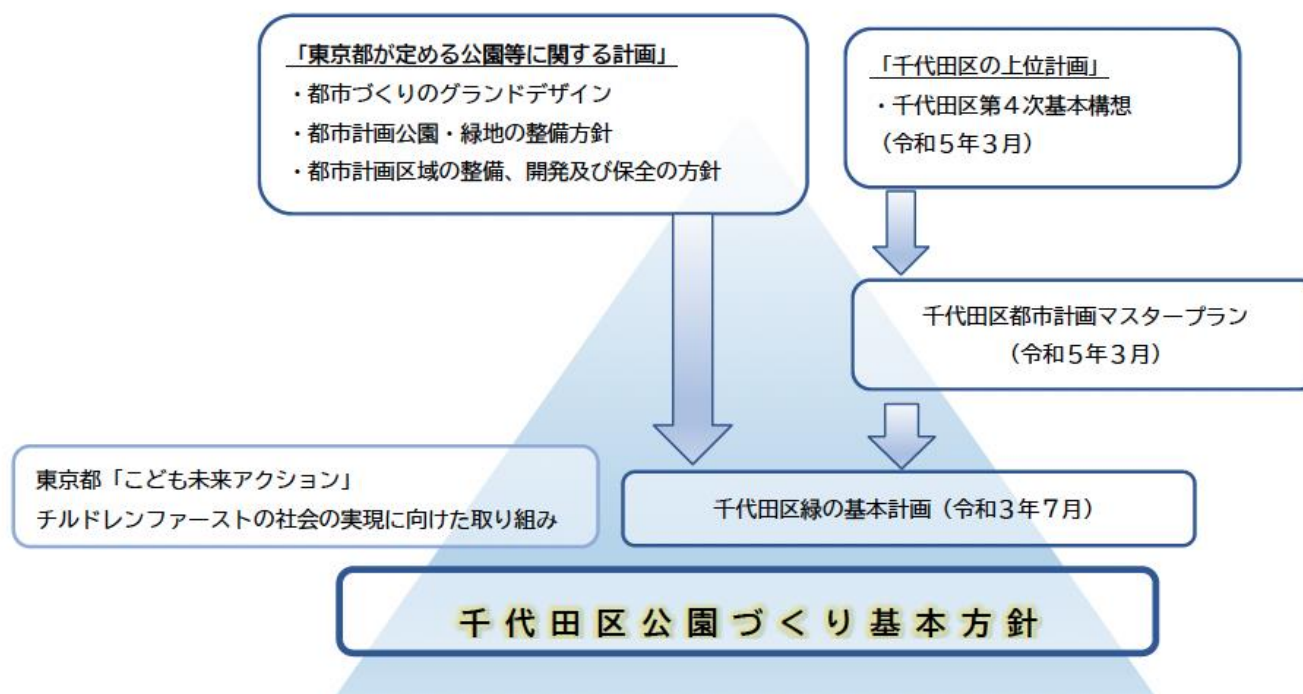


図 本方針と上位関連計画との関係

第2章 公園等における現状と課題

第2章 公園等における現状と課題

1. 千代田区の地域特性

(1)人口

千代田区は23区の中で最も人口が少ない区ですが、現行の整備方針が策定された平成19年度の人口は44,954人であったのに対し、令和5年度時点では67,049人に達しており、約1.5倍の増加となっています。地域別では、麴町・番町地域が最も人口が多く、20,709人となっており、次いで飯田橋・富士見地域、和泉橋地域の順となっています。

年齢3区分別人口では、15～64歳の生産年齢人口が最も高い割合となっており、各地域ともに概ね65%～75%の割合となっています。また平成30年度と令和5年度の町丁目別年少人口率を見ると、全体的に増加傾向にあると言えます。

千代田区で特徴的な要素は、昼間人口の多さで、令和2年度国勢調査の結果では、昼間人口は116万9千人※にのびります。夜間に対して日中の公園利用者の多さが、大きな特徴と言えます。

※昼間人口の数値は、国が公表した不詳補完値による。

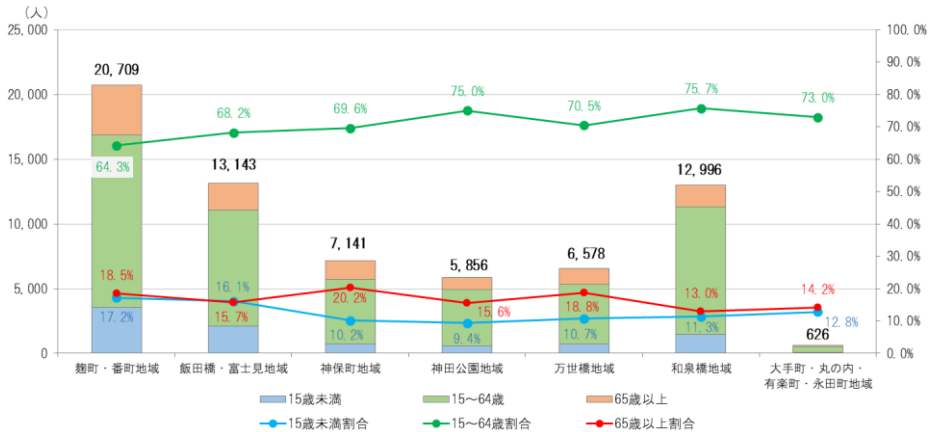


図 地域別の人口と年齢別の割合

(出典：千代田区行政基礎資料集(令和4年度版))

5. 公園の機能

公園の機能については、公園が社会的に果たす役割を踏まえて、以下の6つがあると考えます。

■公園の分類

・ 歴史的公園

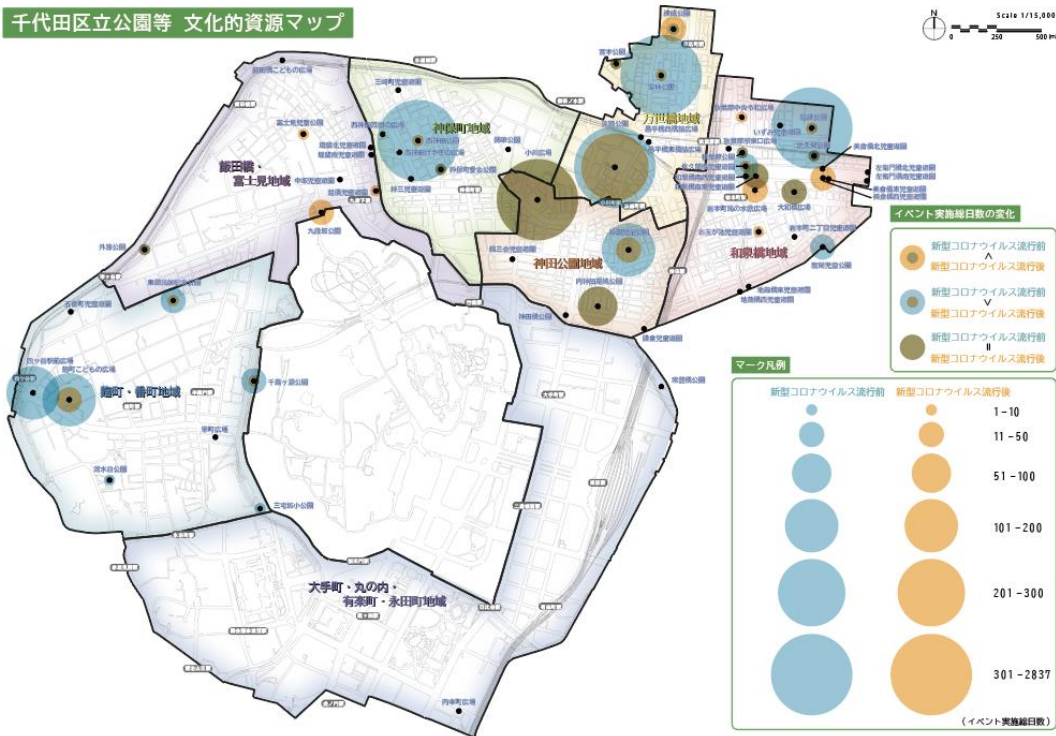
千代田区内には歴史ある寺社や記念碑、関東大震災後に復興整備された震災復興小公園など歴史的資産が点在しています。これらは江戸～昭和を中心とした都市形成の中で継承された資産であり、今後も持続可能な都市を形成するインフラの1つとして次世代に継承していく必要があるものです。神社と隣接した公園や、関東大震災後の復興整備として整備された帝都復興小公園や、歴史的な記念碑、銅像などが建てられている公園が該当します。

例：東郷元帥記念公園、九段坂公園

・ 地域活用公園

千代田区には7つの地域が存在し、この地域を中心に、コミュニティが形成されています。公園を通じたお祭りや地域でのイベントなどによりコミュニティが醸成され、地域のまちづくりに寄与します。このような祭りやイベント等に利用されているなど、1年の中で利活用している公園が該当します。

例：芳林公園、小川広場



・シンボリック公園

千代田区は首都東京の中心に位置し、日本または東京を代表する場所です。区内でも、さらに千代田区らしい区を代表するような公共性のより高い公園（オープンスペース）を分類します。本公園では多様で多世代の方が利用するため、利用者の属性を限定しない多様性・多世代にも配慮した公園であると考えます。該当するものとしては、立地的に重要である場所に位置している公園や、日常的に多くの方に利用されている公園等が該当します。

例：淡路公園、九段坂公園

・先駆的公園

これからのまちづくりにおいては、誰も取り残さない「包摂性」や全てのステークホルダーが役割を果たす「参画性」が重要となります。これまでの公園は限定的な利用が多い傾向でしたが、これからの公園は包摂性や参画性を生み出すような、これまでにない先駆的な機能（プレイパークやスケボーパーク、ドッグランやインクルーシブ遊具）などテーマ性が高く、これまでの区内の公園整備では実現してこなかった公園が該当します。

例：小川広場

・遊び場公園

東京都においてチルドレンファーストの社会の実現に向けた政策が強化され、また千代田区ではベビーファースト宣言が発表され、子どもを産み、育てやすい環境づくりが進んでいます。加えて、千代田区では近年人口が増加の傾向にあり、少年人口についても2050年まで増加が継続すると予測されています。今後増える少年人口であり、これからの社会を担う子どもが、日常的に過ごす場所となる公園は、自分らしく生き生きとした活動が可能となる場所づくり、子育て世代が利用しやすい場所づくりが重要であると考えます。この遊び場公園は、公園内に遊具が多い、自由な遊びができるなど、子どもが遊ぶ機能が大きい公園が該当します。

例：東郷元帥記念公園、外濠公園

・自然環境公園

持続可能な社会の実現に向けては、温暖化を中心とした気候変動への対応や、都市での生活の質の向上が重要な課題となっています。千代田区は中心に皇居を有し、豊かなみどりが存在しています。これらのみどりを中心に、各公園が連携することで、風景や人、動物・生物が繋がり、豊かな暮らしを実現していくことが重要である。自然環境公園は、動植物が多く見られ、緑あふれる緑量豊かな公園が該当します。

例：清水谷公園、千鳥ヶ淵公園

次に、公園の種類別の特徴を以下に示します。

種別	公園分類					
	歴史的公園	地域活用公園	シンボルの公園	先駆的公園	遊び場公園	自然環境公園
公園	12	18	16	2	12	6
児童遊園	0	7	5	0	5	0
広場	0	4	3	2	2	0

【公園】

- ・歴史的公園に分類される12箇所全てが公園に該当しています。
- ・地域で活用されている傾向が強くなっています。
- ・シンボリックな利用をされている傾向が強くなっています。
- ・遊具が比較的充実しています。
- ・自然公園に分類される6箇所全てが公園に該当しています。

【児童遊園】

- ・児童遊園の一部は地域で活用されていますが、児童遊園の全体数からすると少ない状況です。
- ・シンボリックな利用が少ない状況です。
- ・児童遊園でありながら遊具が設置されている公園が少ない状況です。

【広場】

- ・広場の一部は地域で活用されています。
- ・シンボリックな利用が少ない状況です。

7. 全般的な課題と地域毎の課題

これまでに述べた内容を踏まえ、全般的な課題と地域毎の課題について整理します。

(1) 全般的な特性と課題

千代田区の特徴

- ①人口：23区の中で最も人口が少ない一方で、昼間人口は116万9千人にのぼり、昼夜間人口比率（1753.7）は最も高い。
- ②自然環境：武蔵野台地の東端に構えた江戸城を中心に、日比谷入江の埋立てや外濠整備が進められ、大名・旗本屋敷・町地などが発展して完成した江戸城の総構が、現在の千代田区のまちの骨格である。緑被地は約270ha、緑被率は23.22%となっており、皇居を中心とした区内最大の緑地が中央に位置している。その他外濠、靖国神社、国会議事堂前庭等にまとまった緑が分布。西側の麴町・番町地域や飯田橋・富士見地域では緑が点在しているが、東側は緑被率が低く、いずれの地域も10%未満。
- ③土地利用：区内の土地利用は、中心部にある広大な面積を占める皇居、永田町及び霞が関には官公庁施設などの公共用地、日比谷～大手町にかけては、街区の大きな商業用地である。麴町・番町地域、飯田橋・富士見地域においては、住宅用地が多く見られる。
- ④千代田区の魅力・価値：首都東京の風格・文化と創造性・活力が調和している。利便性が高く、豊かな都心環境に恵まれている。環境、災害対応面等で先駆的なチャレンジが展開されている。都心千代田ならではの多様性のある界隈が息づいている。

千代田区の特徴からみる課題

- ★人口増加、特にファミリー世帯の増加、高齢化への対応
- ★区民 × 都心に集まる人等のコミュニティ力の醸成
- ★緑や水辺の質の高い空間の創出
- ★都心生活の魅力・価値を一層高める空間の維持管理と活用
- ★歴史や文化の継承、未来へつなぐ活用
- ★都心に集う誰もが利活用できるユニバーサルデザイン

公園の特性と課題は大きく4つ挙げられます。それぞれ現況分析やアンケート調査等の調査分析により得られた視点です。

千代田区の公園の特性

- ◆「公園」は22箇所整備され、9箇所が2,500㎡以上である。「児童遊園」は22箇所整備され、五番町児童遊園を除いて500㎡未満である。「広場」は14箇所整備され、内幸町広場と小川広場を除いて500㎡前後である。→千代田区内の公園は一部を除いて面積が小さい。
- ◆休憩施設はベンチ・スツール等の整備が進み8割近い公園に整備されている。500㎡未満の公園では整備割合が低い。
- ◆遊戯施設・運動施設の整備率は3割程度。また、運動施設は整備面積が大きいため2,500㎡未満の公園では整備が進んでいない。
- ◆便益施設は大きい公園を中心に整備が進んでいるが、整備率は5割弱に達していない。防災施設は一部公園で整備されている。
- ◆区民一人当たりの公園敷地面積は人口増加に伴い減少傾向にあり、令和4年時点では4.19㎡/人である。



千代田区の公園の特性からみる課題

1) 小規模の限られた公園が多い

区立公園の約半数(32/58)は、500㎡未満の小さな公園となっており、街区公園の基準面積である2,500㎡を大きく下回る公園が数多く存在する。1つの公園で多くの機能を有することが難しい状況である。

2) 利用されていない公園がある

平日・休日の計2日間で、利用者数が10人未満など、利用されていない公園等が点在している。

3) 画一的な整備・遊具が乏しい

現状の区立公園のほとんどが、植栽、休憩施設、各箇所に遊具が配置された画一的な整備となっている。すべり台・砂場・ブランコ・スプリング遊具がほとんどで、子どもの遊びのバリエーションが少ない。

4) ニーズを満たせていない

アンケート調査やヒアリング調査では、公園の利用頻度が多い大人は、「子どもと遊ぶため」の利用傾向が高いことや、小学生等こどもからは遊具や運動施設の整備ニーズが高いことが分かった。現状としては、遊具の種類が少なく、ボール遊びができない状況から、公園等への不満が高い。

(2) 地域毎の特性と課題

これまでに整理した地域特性や公園の現状、利用者ニーズを地域毎に分析し、地域毎の課題を以下に示します。

麴町・番町地域

～地域特性～

- ①人口：人口密度が高い
- ②自然環境：東西が内濠・外濠に接する。台地に浅い谷が数本入り込んでおり、坂道の上り下りが繰り返される地形となっている
- ③土地利用：町人地から発展し、幕末は山の手最大の商業地であった麴町地域は、現在麴町大通りに沿ってオフィスが建ち並ぶ。番町は旗本屋敷が街並みのルーツであり、広い敷地を利用したマンション、オフィス街が広がる。紀尾井町には大学、国立劇場、ホテル等の大規模施設が立地する。
- ④地域の魅力：外濠や東郷元帥記念公園等の豊かな自然と清水谷公園等の起伏に富んだ地形、千鳥ヶ淵緑道のさくら並木などの四季の変化を感じさせる緑や水辺の環境がある。また落ち着いた住環境と共に、小中学校や大学キャンパス等の教育機関も充実している。
- ⑤公園整備状況：公園の平均面積は広い。東郷元帥記念公園がリニューアル中。また、外濠公園内の総合グラウンドがリニューアルオープンした。



～ 麴町・番町地域 区民の声～

(こども)

- ・遊具が少ないし、ふれあえる木々や岩や丘もなく、みんなで考えて遊んだりかくれんぼをしたり、楽しく過ごせません。
- ・なにも遊具がない公園が多すぎるし公園に対する不満が沢山ある。

(大人)

- ・東郷公園の改修工事期間が長すぎると思います。遊具や砂場で遊びたかった歳に使えず、今は広場のみ・・・。
- ・番町の森の公園が近くに出来て助かっています。

～地域特性から分析した課題～

- ★区内で最も多くの人々が住み、高齢化が進む一方で、ファミリー層や子どもも同時に増加
- ★身近な緑・空地の不足

～公園の現況調査から分析した主な課題～

- ★ニーズを満たせていない (ex. ボール遊び)
- ★画一的な整備・遊具が乏しい

飯田橋・富士見地域

～地域特性～

- ①人口：人口密度が高い
- ②自然環境：北西では外濠、東は日本橋川、南は内濠が本地域を囲む。地域の西側が台地、東側が低地であり、その境界部を南北崖線が貫いている
- ③土地利用：旗本屋敷を主とした武家地が、明治以降、政治家の屋敷街や軍用地等となり、その後学校や病院に転換、現在は落ち着いた住宅地が広がる。飯田橋駅周辺では、近年の土地区画整理事業、市街地再開発事業により多様な機能が集積。九段下駅周辺は、千代田区役所等、区政の中核機能が集積している。
- ④地域の魅力：エリアの大半が文教地区に指定され、落ち着いた環境が維持されている。外濠公園の眺望や桜並木、北の丸公園、靖国神社など、大規模な緑の眺望や、安らぎある環境を身近に感じることができる。
- ⑤公園整備状況：外濠公園（逓信病院前）で新たに遊び場機能を拡充した。九段坂公園・俎橋児童遊園がリニューアルオープンした。



～地域特性から分析した課題～

- ★市街地再開発事業による住宅供給などにより、定住人口の増加
- ★飯田橋駅、市ヶ谷駅、九段下駅における駅周辺整備の機運の高まり

～公園の現況調査から分析した主な課題～

- ★ニーズを満たせていない（ex. 公園数や広さの不足）
- ★小規模の限られた公園が多い



～ 飯田橋・富士見地域 区民の声～

（こども）

- ・公園のトイレはこわくて使いにくい。
- ・ボールや花火が出来る公園がないから作って欲しい

（おとな）

- ・子供の就学前はよく公園に遊びに行きましたが、学年が上がるにつれて利用頻度が少なくなって来ました。
- ・公園に遊具があるのは大事だと思います！！

神保町地域

～地域特性～

- ①人口：人口密度は低い
- ②自然環境：坂道の多い地形であり、神田駿河台周辺の標高が高く、南側に向けて緩やかに傾斜している。北側を神田川が、西側から南方向に日本橋川が流れている。
- ③土地利用：旗本屋敷として多くの武士が暮らしていた神保町は、住宅地として発展。古書店街、スポーツ用品店街等、個性ある界隈が存在する。旗本屋敷などの武家地では、屋敷や長屋が組み合わさっていたため、現在も街区が大きい一方で道幅は狭くなっている。
- ④地域の魅力：古書店街や学生街など独特のまちの個性を活かしつつ、日本武道館やスポーツ用品店街などとの回遊性を高めた賑わいにあふれたまちである。また、出版業・書店の集積を活かし最新の情報を発信するとともに、歴史・文化的たたずまいや下町的コミュニティが感じられる。
- ⑤公園整備状況：錦華公園と神保町愛全公園が、リニューアル中。児童遊園など小さな公園の性格付けがされていない。



～ 神保町地域 区民の声～

(こども)

・最近公園遊具が少なくなっていて、公園がただの広場みたいになっているので、もっと遊具を増やして欲しいです。

・緑も結構あり歩道もきれいで快適に登校できます。いつもありがとうございます。

(大人)

・公園と呼べない小さすぎる公園が多い。遊具がなかったり、滑り台一つがやっとおける公園など。

・もう少し子供のびのび遊べる公園を各地域に作ってほしい。

・年配のかたはゲートボール等できるのに子どもはサッカー等であそべないのは不公平だと思います。

～地域特性から分析した課題～

- ★市街地再開発事業による住宅供給などによる定住人口の増加、若者層の人口減少
- ★神田神保町などにおいて中小建物の老朽化
- ★神田川・日本橋川氾濫や集中豪雨等による被害拡大の懸念懸念

～公園の現況調査から分析した主な課題～

- ★利用されていない公園がある
- ★ニーズを満たせていない

神田公園地域

～地域特性～

- ①人口：人口密度は低い
- ②自然環境：低地部に位置し、平坦な地形が広がっており、地域の南側を日本橋川が流れている
- ③土地利用：町地が広がっていた本地域では、通りに面した商店と、狭い裏長屋で街並みが構成され狭い路地が縦横に入り組んでいる。昭和から続く神田駅西口商店街は全長 300mにわたって店舗が建ち並び、大手町に隣接していることから、働く人も多く、賑わいが見られる。出世不動尊、豊川稲荷神社、佐竹稲荷神社等、歴史を感じさせる資源が残されている
- ④地域の魅力：神田駅周辺の商店街やスポーツ用品店街に集まる多様な人々との交流や、出世不動尊や佐竹稲荷神社などに残る歴史をまちの資源として活かし、昔ながらの下町らしさと新しい文化が感じられる。
- ⑤公園整備状況：神田児童公園に公園機能が偏っており、地域の公園としてできることのバリエーションが少ない。



～ 神田公園地域 区民の声～

- （こども）・いろんな遊びができる公園や広場があるといいなと思います。ボール遊びやかけっこ、鬼ごっこ、遊具など
- ・スケーターで思い切り遊べる広場が欲しい。神田駅の近くに遊具がいっぱいある公園が欲しい。
- （おとな）・夏の公園のプールは何度も通わせていただきました。コロナで奪われがちだったこどもの成長機会を提供いただけ、大変ありがたかったです。こうした機会があると、子育てがんばろう！応援してくれるんだなと感じられ、モチベーションにつながります。
- ・全世代の合意を得ながらまちづくりをしていくのは難しいとは思いますが、次の世代を見ながら子どもたちの成長を見守って頂けると嬉しいです。

～地域特性から分析した課題～

- ★集合住宅への建替えにより、単独世帯数が大きく増加し、定住人口が増加
- ★まちの味わいや奥行きを感じられる神田らしさの希薄化
- ★中小建物の老朽化が進行
- ★身近な緑や空地などの不足

～公園の現況調査から分析した主な課題～

- ★利用されていない公園がある
- ★ニーズを満たせていない

万世橋地域

～地域特性～

- ①人口：人口密度は平均的
- ②自然環境：地域の西端に位置する御茶ノ水駅周辺や神田明神が台地の東端部にあたり、地域の東側は平地上で平坦な地形が広がっている。地域の中心を神田川が東西に貫流している。
- ③土地利用：秋葉原駅周辺は高度経済成長とともに世界有数の電気街・サブカルチャーのまちとして発展、多様な文化を発信し多くの観光客が訪れる等、特に滞在人口が多い。神田明神や歴史を刻んだ老舗飲食店を中心に、界隈から下町らしさを感じることができる。また、電気街にも講武稲荷等の小さな歴史資源が残されている。
- ④地域の魅力：神田明神やニコライ堂等歴史的資源が多数存在し、神田祭に象徴される祭礼文化、伝統的な下町風情を感じられる。一方で秋葉原駅周辺は情報技術産業等の新産業拠点として界隈が形成されている。外神田から御徒町にかけては、ものづくりやアートの創造的な活動が展開され文化・情報の発信地となっている。
- ⑤公園整備状況：練成公園、芳林公園、宮本公園、淡路公園といったお祭りやイベント利用が年間を通して頻繁に行われている公園がある。



～ 万世橋地域 区民の声～

- (こども) ・野球の素振りやキャッチボールが出来ない。遊具が少ない。
・ブランコやターザンロープが欲しい。滑り台を長く急にして欲しい。
- (おとな)
- ・小学生の運動不足とされている中、公園は禁止事項が多く、ボールやバドミントンなど、運動出来る場所がないので体力もつかない。
- ・①蚊の対策をしてほしい②公園なのに遊具が少ない理由が地域の要望(お祭りなどのスペースが必要)のためと聞いたが、年に数回のイベントのために子供の遊びが制限されることはおかしいと思う
- ・芝生でくつろげる公園がほしい。

～地域特性から分析した課題～

- ★ファミリー層を中心とした定住人口の増加
- ★区内で最も多くの外国人観光客が来訪
- ★中小建物の老朽化が進行
- ★荒川氾濫や集中豪雨などによる被害拡大の懸念

～公園の現況調査から分析した主な課題～

- ★画一的な整備・遊具が乏しい
- ★ニーズを満たせていない

和泉橋地域

～地域特性～

- ①人口：人口密度は平均的
- ②自然環境：平地部に位置し平坦な地形が広がり、地域の中心を神田川が東西に流れる。
- ③土地利用：繊維・金物・薬品等独特の間屋が集積、住商の混在する町として発展。近年マンションの建替え等でファミリー世代の人口が増加。特に東神田一帯は夜間人口密度が高くなっている。
- ④地域の魅力：下町のおよさと都心の魅力が感じられる。さらに、親水性を高めた神田川や道路空間が存在するとともに、人々が気軽にふれあうような人情あふれる空間である。
- ⑤公園整備状況：和泉公園や佐久間公園は利用者が多い。17箇所ある500㎡以下の児童遊園や広場の利用者が少ない。



～ 和泉橋地域 区民の声～

（こども）・ボール遊びが出来る様にして欲しい。
遊具の種類を増やして欲しい

・遊んでもいい自然を増やして欲しい！また、広い
ほうがいい

（おとな）・「児童遊園」の名は付いているものの、狭く遊具もなく、大人が休憩（喫煙）しており、子どもが遊べない公園が多い印象を受けます。

・千代田区の特に公園に付随するトイレはハードだけでなく、メンテナンスの水準が世界最高だと思えます。ランナー、サイクリストとして、世界各地の公園を利用させてもらいますが、これは驚きです。

・制限された面積のなかであれ、樹木も多く、素晴らしい。千代田区に住んで一番自慢出来るのが公園です。

～地域特性から分析した課題～

- ★ファミリー層、子ども層を中心とした定住人口の増加
- ★かつての間屋街の界索性やコミュニティのつながりの希薄化
- ★中小建物の老朽化が進行
- ★荒川・神田川氾濫や集中豪雨などによる被害拡大の懸念

～公園の現況調査から分析した主な課題～

- ★小規模の限られた公園が多い
- ★利用されていない公園がある
- ★画一的な整備・遊具が乏しい
- ★ニーズを満たせていない

大手町・丸の内・有楽町・永田町地域

～地域特性～

- ①人口：人口密度は低い
- ②自然環境：皇居や内濠、日本橋川など水と緑に囲まれている。かつて入江であった東側の大手町・丸の内・有楽町・日比谷周辺エリアと、台地上に位置する西側の永田町・霞が関エリアに大別される。地域の南西では崖線が形成されており、大手町は日本橋川に接する。
- ③土地利用：世界有数のビジネス拠点であり土地の高度利用が進んでいる。大名屋敷が立ち並んでいた街区構造を継承し、広幅員道路が直交し、大きな街区が形成されている。永田町・霞が関エリアは、大名屋敷が立ち並んでいた街区構造を基に、明治期以降の官庁集中計画に基づいた街区構造となっており、大半のエリアで政治・行政・司法機関の大規模な建築物が立ち並ぶ。
- ④地域の魅力：世界都市東京の中心にふさわしく、歴史の積み重ねによる風格ある質の高い街並みを形成し、また、鳥や昆虫のすむ緑と水辺の豊かな環境共生空間を創出。更に、多様な人々に開かれ、質的転換の図られた高次な業務機能と国際的な商業・文化交流・情報機能をあわせ持つ複合的な都市機能を備え、災害に強く、豊かな都市活動や世界交流が営まれるまちである。
- ⑤公園整備状況：常盤橋公園は、首都高日本橋区間地下化・再開発によりリニューアル検討中である。官民が連携し道路の公園的利用を推進している



～ 大手町・丸の内・有楽町・永田町地域 区民の声～

- (おとな)
- ・子どもたちの遊べる公園(遊具)、ボール遊びの出来る公園を増やして欲しい。
 - ・千代田区は緑が多い方だと思います。
 - ・公園ではありませんが、旧永田町小学校の日曜日の校庭解放を活用させていただいており、大変ありがたいです。
 - ・使っていないスペースをただの広場として(ボールやキックボードOK)解放するのもよいアイデアと思っており、是非増やしていただきたいです。

～地域特性から分析した課題～

- ★先駆的なエリアマネジメント活動の活性化
- ★都心の複合的な魅力創造によって、滞在する人が増加・多様化
- ★都心の風格ある景観を保全・継承する開発等の進展

～公園の現況調査から分析した主な課題～

- ★利用されていない公園がある
- ★画一的な整備・遊具が乏しい
- ★ニーズを満たせていない

第3章 公園づくりのビジョンと方向性

第3章 公園づくりのビジョンと方向性

1. 基本的な考え方

今後の千代田区における公園整備は、地域の歴史や特性を踏まえつつ、多様なニーズに寄り添いながら利用者にとって魅力が高く、都市における機能を最大限に発揮した公園づくりを目指します。

また、①公園利用時のルール緩和や公開空地・道路など既存ストックの公園的空間としての活用、②民間開発計画との連携によるオープンスペースの拡充、③区民や民間事業者等の公園に係る人々を増やしながら新たな維持管理手法の導入や支援体制など更なる公園の魅力向上を図ります。

2. 基本理念（コンセプト）

基本方針における基本理念（コンセプト）を以下の通りとします。

案1 ～子どもたちに都心の彩を～

千代田区第4次基本構想の「めざすべき将来像」の「伝統と未来が調和し、躍進するまち～彩あるれる、希望の都心」をモチーフ。

「子ども」：日本の中心都市だからこそ、公園・児童遊園・広場をフル活用して笑顔になってほしい。

「都心の彩」：道路や民間の公開空地等との連携により、都心の強みを活かす。

案2 ～千代田区の歴史と未来を尊重し、次世代の育みを支える 生き生きとした公園づくり

「歴史」：千代田区らしさを表現

「未来」：歴史と未来を併記することで、多世代の交流を意識

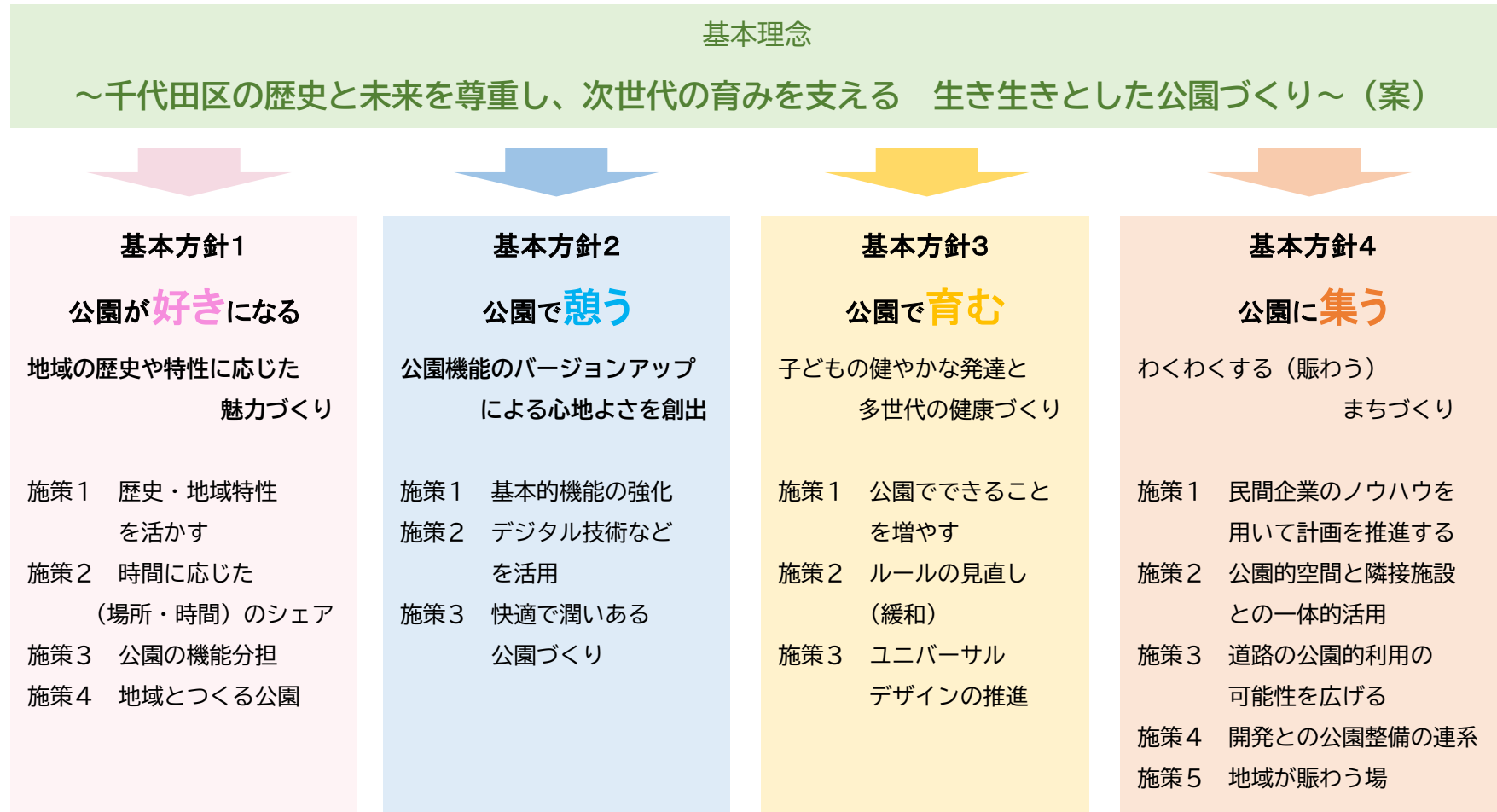
「次世代を育む」：子どもや子育て世代などをイメージ

「生き生きとした」：多様性や子どもの活発な行動、区民をはじめとした利用者の参加をイメージ

案3 ～遊び、学び、憩う。居心地よいコモンスペースを目指して～

都心の中にある誰でも利用できるパブリックスペース（道路・公園・庭など）にて、交流や憩いの場となることを目指しているイメージ。

公園づくり体系



3. 基本理念を実現するための4つの基本方針

基本理念「～千代田の歴史と未来を尊重し、次世代の育みを支える生き生きとした公園づくり～」を実現するにあたり、以下の基本方針を掲げます。

基本方針1：公園が**好き**になる

～地域の歴史や特性に応じた魅力づくり～

施策1 歴史・地域特性を活かす

- ・地域の歴史や特性、利用ニーズにあった特色ある整備
- ・隣接する施設、道路、河川等との一体的な公園灯の再整備と利活用
- ・良好な景観や長い歴史に培われた文化的な特性を活用

施策2 時間に応じた（場所・時間）のシェア

- ・利用時間に応じた空間を分担し、皆が楽しめる空間づくり
- ※千代田区では、昼間人口比率が高いため、場所や時間に応じて利用者属性を変化することへの対応が必要。

施策3 公園の機能分担

- ・区内の公園・児童遊園等全体で機能を分担する。
- 限られた公園面積による公園機能向上の手法を検討する。
- ※単独の公園では機能を十分に満たせないことが課題です。
- 小さな公園については、地域毎でのバランスを配慮し機能を絞って整備する必要があります。



施策4 地域とつくる公園

- ・こどもや保護者など地域の意見を取り入れ、子育て・コミュニティの核となる公園づくりを目指す。

基本方針2：公園で憩う

～公園機能のバージョンアップによる心地よさの創出～ 公園の基本的な機能に加えて、**基本機能の強化や拡張**を行います。

施策1 基本的機能の強化

- ・トイレの清掃・美化
- ・雨水流出抑制機能などの災害対策機能を強化
- ・身近な自然である公園の緑陰のから木陰を創出
- ・水飲みやテーブル・ベンチなどの休憩できる場の自由に安心して休める快適な休養施設を拡充。

施策2 デジタル技術などを活用

- ・デジタル技術などを活用した防犯性に配慮した安全・安心な公園づくりを行います。
- ・デジタル化に対応した都市公園機能向上
- ・公園機能・温度・利用者などの見える化・オープンデータ化の推進

施策3 快適で潤いある

公園づくり

- ・環境配慮し、自然との触れ合い 都市の中でも自然の豊かさや多様性に触れられる公園をつくる。
- ・都市公園の再整備のときに緑被地を確保する。
- ・歴史文化や環境教育のための設備（歴史サイン、ビオトープ等）を設置し、区民から求められる健康・福祉、子育て・教育等の機能充実を図る。
- ・公園や周辺等にドライ型ミストの設置を誘導し、クールスポットを創出。

□休憩施設

現在	行動ビジョン
藤棚・パーゴラ等 3公園	休憩機能を持つ公園へのベンチの再配置
四阿 1公園	パーゴラの再配置・増設検討
トイレ 24公園	身近な自然である公園の緑陰のから木陰を創出
水飲み 22公園	常設のベンチにこだわらず、仮設休憩スペースを推進していきたいと考えています。

基本方針3：公園で育む

～子どもの健やかな発達と多世代の健康づくり～若年層の人口増の影響を加味し、公園の子育て支援機能の強化を図ります。

施策1 公園でできることを増やす

- ・特徴的な遊具を入れて遊びのバリエーションを拡充。(ハード対策)
- ・ボール遊びができる場所や時間を拡充。
- ・インクルーシブ遊具を導入した、誰もが遊べる公園整備の推進
- ・テーマ型機能の拡充
例：スケートパーク、ボール遊び場、特徴的な遊具など
- ・水や緑、動植物と触れ合える場づくりの推進
- ・利活用団体によるイベント開催に対する柔軟な運用の支援

施策2 ルールの見直し（緩和）

ボール遊びについて

- ・ボールネットなどによるボールの遊び場の創出（ハード）
- ・遊び場事業で配置しているプレイリーダーの時間と場所を増やす
- ・公園以外の利活用の場を検討し、情報発信する。

花火での利用について

- ・花火のできる箇所を増やす

施策3 ユニバーサルデザインの推進

- ・誰もが利活用できるユニバーサルデザインを推進する。

□遊び場を増やす

現在		行動ビジョン
子ども向きの遊具	18公園/58公園	ボール遊び場ができる施設を拡充
健康遊具	5公園	ドックランやスケートパークの設置推進
テニスコート・野球場・フットサルコート	1公園	インクルーシブ遊具が特徴的な遊具の設置推進
スケボーパーク	0公園	花火のできる箇所を増やしたいと考えています。
ボール遊び場	0公園	

※インクルーシブとは、包含性。すべてを含むという意味があります。

基本方針4：公園に**集う**

～わくわくする（賑わう）まちづくり～ 公園での活動がまちづくりに寄与するように利用者、事業者との協働を推進します。

施策1 民間企業のノウハウを用いて計画を推進する

- ・公園の質の向上、公園利用者の利便性向上、公園管理者の財政負担の軽減等に向けて、指定管理者・Park-PFI制度（公募設置管理制度）の活用等、公園の整備・運営にあたり民間活力を導入することも検討していきます。
- ・利用者との協働
- ・事業者やエリアマネジメント団体等との協働（エリマネ団体との連携等）

施策2 公園的空間と隣接施設との一体的活用

- ・公園・公開空地などの公園的空間としての活用
- ・公園に隣接する施設と連携した整備やイベントの推進

施策3 道路の公園的利用の可能性を広げる

- ・車の利用が少ない時間に道路をオープンスペース化し、仮設で歩行者に限定した憩いの場や親水空間などの創出に向けて検討を進める。

施策4 開発との公園整備の連系

- ・民間開発計画との連携によるオープンスペースの拡充を図るとともに、柔軟な運用を目指したマネジメントを推進する。
- ・隣接する施設、道路との一体的な公園等の再整備と利活用

施策5 地域が賑わう場

- ・アダプト制度等の地域活動に、学生、企業、商店街等が参画できる機会づくり
- ・区民の地域貢献活動ニーズに対応した活動支援
- ・区民や民間事業者等の公園に係る人々を増やしながら新たな維持管理手法や支援体制の導入を検討する。